
mp;仮面ライダーfeatゴウカイジャー スーパーオールスターズ！ 超決戦！時空を越えた絆！

龍星皇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

プリキュア&：仮面ライダーfeat.ゴージャス
パーオールスターズ！ 超決戦！時空を越えた絆！！

【Nコード】

N2785U

【作者名】

龍星皇

【あらすじ】

かつて正義の戦士たちに破れた悪の組織が復活し、全ての世界を滅ぼすべく手を組んだ！

手始めに「スイートプリキュアの世界」を狙う強敵達に、琥珀やプリキュア達はピンチに陥ってしまう。

しかし、彼らのピンチを救うべく、歴代仮面ライダーとあのとんでもなくゴージャスな奴らが立ち上がった！！！！

TVでは絶対見られない夢の共演を見逃すな！！！！

この小説は、龍星皇の「加音町での転生生活」の劇場版小説です。
先に「加音町での転生生活」を読むと10倍楽しめるはず。

イマジンのへる(前書き)

皆さんこんにちは。龍星皇です。

もし「こんな人いたんだ・・・」って方がいたら、あらずじにもあるように「加音町での転生生活」をお読みくださいm()m

それではおまけの「イマジンのへる」お楽しみくださいm()m

イマジンのへる

モモ「俺、参上！ようみんな、久しぶりだな！俺はモモタロスだ！
！！」

ウラ「先輩、あれだけ映画に出ておいて久しぶりはないでしょ・・・
。あ、僕はウラタロス。女性読者のみんな、感想待ってるからね？」
キン「・・・なんや、自己紹介するんか？ワイはキンタロス。よろ
しゅうな！！！」

リュウ「リュウタロスだよ！よろしくね」

？世「俺様はキバツトバツト？世！女性読者の諸君、俺様への求婚
は感想ページに頼むぜえ〜？」

ハミイ「ハミイだニヤ！よろしくニヤ」

モモ「・・・で、なんで俺たちはここに居るんだ？」

ウラ「なんでって、「加音町での転生生活」の劇場版、『プリキュ
ア&ピ仮面ライダーfeatゴージャススーパーオ
ールスターズ！ 超決戦！時空を越えた絆！！』のおまけ担当
になったからだよ」

モモ「おまけだあ？なんで俺たちがおまけなんかやるんだよ!？」

ウラ「電王と言えば僕たちイマジン、イマジンと言えばイマジンあ
にめでしょ？それにあやかってるんだよ」

？世「なるほど、作者にしては良い事考えたなあ」

リュウ「ねえねえカメラちゃんカメラちゃん、今回は何するの？」

ウラ「特に何も」

ウラ以外「え？」

ウラ「というのは冗談で、今回の映画の見所をみんなで語るんだ」
モモ「見所？俺の大活躍に決まってるだろ！！！」

ウラ「無視の方向で行くよ」

リュウ「カメラちゃんすごいスルー・・・」

？世「ボケをスルーとは・・・さらに出来るようになったな！」

ウラ、「というか、作者くんも内容を思い付いて無いのに見所も何も無いね、これは止めよう」

キン、「自分で振って自分で止める・・・泣けるで!」

琥珀「・・・なにやっつてんだよお前ら」

ウラ「琥珀くん!? どうしてここに!？」

琥珀「面子が面子だからとんでもない事になるかも、と思っただけで待機してた」

キン「泣けるで!」

琥珀「さつきからそれしか言っていないお前・・・ってか、そろそろ尺無くなるぞ」

琥珀以外「え!？」

琥珀「と言うわけで?世、しめはよろしく」

?世「俺か!?!よしわかった!みんな、この小説を見るときは、部屋を明るくして画面に近付きすぎないようにするんだぞ!」

琥珀「それじゃあ、[「プリキュア&仮面ライダーfeat](#)
[「ゴカイジャー](#) [「スーパーオールスターズ!](#) [「超決戦!時空を](#)

[越えた絆!?!](#)」 [「始まるぜ!?!](#)」

イメージのへる(後書き)

次回はプロローグでございますm()m

プロローグ

君たちは知っているか？

無数に広がる平行世界で、幾度となく地球が侵略者の魔の手に襲われてきた事を・・・

しかし、安心してほしい。

それぞれの世界を悪の魔の手から守って来た、伝説の戦士達がいるのだ！

境遇に違いこそあれど、悪の魔の手から世界を守った仮面の戦士「仮面ライダー」。

。 強大な敵に、五つの力を一つに合わせて立ち向かう「スーパー戦隊」

精霊から力を託され、平和を守るために戦う伝説の戦士「プリキュア」。

そしてこの世界にも、その魂を受け継ぐものたちがいた・・・

プロローグ（後書き）

次回から本編です。

ここで報告を。

この小説は、「加音町での転生生活」とは違って基本的に三人称で進みます。

それでは、次回もお楽しみに（＾ー＾）

邂逅（前書き）

お待たせしましたm（ ）m

邂逅

真つ暗な暗闇の中に、無数の地球の姿が広がる空間があった。

ここは、様々な平行世界を監視する、「監視者」の世界」。

そこに、その監視者である青年 「紅 渡」が立っていた。

彼は監視者であると同時に、人間と「ファンガイア」と呼ばれる生物のハーフであり、ファンガイアの王に代々伝わる「キバの鎧」の一つである「黄金のキバ」の継承者である。

そんな渡の目は、ある一つの世界に向いていた。

「・・・早くしないと、大変な事になる」

渡は、ある世界への扉を開いた。

とある世界の街中。

ここでは、銀色の無機質な頭部の戦闘員と、赤、青、黄色、緑、桃色、銀色の6人の戦士が戦闘を繰り広げていた。

「あゝもう！毎回毎回しつこいのよザンギャック！」

黄色の戦士が、戦闘員 「宇宙帝国ザンギャック」の兵士「ゴーミン」を持っていた剣で切り裂く。

「マーベラス、こいつでやるう！」

黄色の戦士が、自らのベルトのバックルから黄色い人形の様な物を取り出す。

「よし、行くぞ！」

銀色の戦士以外も自分と同じ色の人形の様な物を取り出し、鍵へと変形させて、携帯の様なアイテム 「モバイレーツ」に差し込む。

「……」豪快チエンジ！！」「……」

【ゴオオオレンジャー！】

電子音声が鳴り響き、五人はこの世界で一番最初に結成されたスパー戦隊、「秘密戦隊ゴレンジャー」へと姿を変える。

彼らこそ、34のスパー戦隊の力を受け継ぐ、「海賊戦隊ゴーカイジャー」である……！！

「まったく、本当に鬱陶しいわねザンギャックの奴ら」

ゴーカイジャーの本拠地である帆船「ゴーカイガレオン」。

戦闘を終えてくつろいでいる中、ゴーカイイエローである「ルカ・ミルフィ」がぼやいた。

「しょうがないじゃん。あつちは僕らの事潰そうとしてるんだから洗濯物を畳みながら、ゴーカイグリーンである「ドン・ドッゴイヤ」が答える。

「アイム、これしまつてきてもらっても良いかな？」

「心得ました。ついでお夕飯の準備もしてきますね」

「ありがとう。後で僕も手伝いに行くから」

丁寧にたたまれた洗濯物を抱えて、ゴーカイピンクである「アイム・ド・ファミーユ」が運んでいく。

「ところでマーベラス。そろそろ次の大いなる力を探すべきじゃない

「いか？」

「ゴーカイブルーである「ジヨー・ギブケン」が、ガレオンの船長でありゴーカイレッドの「キャプテン・マーベラス」に問いかける。

「そうだな。おい鳥！」

『りようかーい！レッツお宝ナビゲート!!!』

鳥型のナビゲートロボット、「ナビィ」は部屋中を飛び回り、天井に激突して落ちてきた。

『タカ！トラ！バツタ!!! 異世界の戦士を助けると、きっと良いことがおきるぞよ!!!』
『・・・こんなに出ましたけど?』

「・・・いつにもまして意味わからん」

「異世界の戦士つて、どう助けるのよ？」

「だいたい、それがスーパージョウとどう関係があるんだ？」

「いやいや皆さん、『異世界の戦士』がいるスーパージョウのことも知れませんか？」

「ゴーカイシルバーこと「伊狩 鎧」が三人に話しかける。

「・・・じゃあどんな戦隊だ「なのよ」?」

「え?それは、えーと・・・」

「その占いは、スーパージョウに関わる物ではありませんよ」

突如、このガレオンにいるはずの無い男の声。

「マーベラス達がモニターの方を見ると、一人の青年がいた。

「初めまして、ゴーカイジョウ。僕は紅 渡。世界の管理者の一人です」

渡は再び話し始める。

「その占いは、君たちがある異世界に行く事を示唆しているんです」
渡の言葉にマーベラスは眉を潜める。

「なんで俺達が異世界になんか行かなきゃ行けないんだ?俺達の行き先は俺達が決める。てめえなんかにしのこの言われる筋合いはねえ」

「この星が、『宇宙最大のお宝』と共に消滅してもですか？」

「・・・なに？」

『宇宙最大のお宝』。それはこの地球に眠っているとされる物で、ゴークイジャー達がこの星に来た最大の理由である。その宝を手に入れる為には、歴代34のスーパー戦隊の『大いなる力』を全て手に入れなければならない。

その為、ゴークイジャーの六人はスーパー戦隊の『大いなる力』を探し回っているのである。

「かつて、歴代スーパー戦隊に滅ぼされた悪の組織、さらに様々な並行世界で戦士達に滅ぼされた悪の組織までもが復活し、全ての世界を消滅させようとしているんです。それを止める為にはあなた方の力が必要なんです」

ゴークイジャーの面々が押し黙る中、マーベラスが口を開いた。

「・・・おもしれえじゃねえか。その話、乗った!!!!」

マーベラスの言葉に、全員が頷く。

「ありがとうございます。では・・・」

渡はおもむろに指を鳴らした。

「このまま進めば世界の壁を越えます。では、ご武運を」

そう言つて渡は何処かへと消えた。

「また厄介な事に巻き込まれたな・・・」

「良いんじゃない？それがあたし達でしょ」

「そうそう、僕たちが厄介事に巻き込まれ無かった事なんて無かったですよ？」

「それにしても、わたくし達がこれから行く世界というのはどういった所なのでしょうか・・・」

「異世界で戦う正義の戦士！一体どんな奴なんだろうなあ〜！楽しみだなあ〜!!!!」

「行くぞ！異世界に向けて、全速前進!!!!」

「あつ~~~~い・・・」

とある世界にある、音楽の町「加音町」。

この町に住む少女、「北条 響」は余りの暑さに呟いた。

「ひびき〜。暑いって言うとな計に暑いわよ〜」

響の幼なじみ「南野 奏」も呟いた。

「・・・アイスでも食うか？」

二人の幼なじみ「黒霧 琥珀」がやや呆れながら二人に問い掛けた。

「本当！？じゃああたし、『ゴールドモード』の十五段アイス！！

！」

「誰が奢るつつつたよ」

「え〜良いじゃん。大富豪なのにケチだなあ・・・」

「・・・しばくぞコラ」

「おい、お前ら」

三人がそんなやりとりをしていると、男女五人組が話しかけてきた。

「あ、『ガレオン』の皆さん、こんにちわ」

奏はこの六人をこの町にあるクレープ店「ガレオン」の店長と従業員だと思つて挨拶した。

しかし、六人は顔色を変える。

「お前・・・どうして『ガレオン』の事を知つてやがる！」

「え？何言ってるんですか店長さん」

「俺は店長じゃねえ、船長だ」

この言葉に三人は首を傾げる。

「琉歌先輩、愛夢先輩、店長さんどうしたんですか？」

「はあ？何言ってるのよあんだ」

「わたくし達、自己紹介していませんよね・・・？」

ますます首を傾げる三人。その時。九人を取り囲む様に灰色のオーロラが現れた。

「これは・・・なんで今異世界への扉が開くんだ!？」

「お前、どうしてそれを知ってやがる！」

六人組のリーダー格の青年が琥珀に詰め寄った瞬間、オーロラの中から数十人の何かが出てきた。

「イイー!!!」

「ウガアツツ!!!」

「オルゲツト!!!」

「ナアー!!!」

彼ら　というより琥珀以外は知らないが、オーロラから現れたのは、「シヨツカー」の「戦闘員」、「蛮機族ガイアーク」の「ウガツツ」、「オルグ」の「オルゲツト」、「外道衆」の「ナシ」。

他にも「ゴーマ一族」の「コツトポトロ」や「クライシス帝国」の「チャップ」など、様々な組織の下級戦闘員が九人を取り囲んでいた。

「響！奏！なんかいつもと雰囲気違う『ガレオン』の皆さんを頼む！」

「わかった！」

琥珀はベルトのバックルの様な何かを取り出し、腰にかざす。

すると、その何かからベルトが飛び出し、琥珀の腰に固定される。

琥珀は三枚のメダルを取り出し、右腰に装着された円形のアイテムを取り出し、バックルをスキャンする。

「変身!!!」

【タカ！トラ！バッタ!!!タ・ト・バ！タトバ！タ・ト・バ!!!】

奇妙な歌が流れると同時に琥珀の体をメダル状のオーラが包み、それが消えると同時に、琥珀は赤い頭部に黄色い胴体、緑の脚部を持つ戦士になった

響と奏は、目の前で起きた出来事に目を疑った。

何しろ、目の前で知り合い

実際は知り合いにそっくりな人間

が変身し、銃を乱射したのである。それは混成戦闘員軍団と戦っている琥珀も同じだった。

「ゴーカイジャー・・・？」

琥珀の動きが止まった隙に、ナナシとウガッツがそれぞれの武器を降り下ろす。

「しまっ・・・！」

しかし、ナナシはゴーカイピンクの放った銃弾に撃ち抜かれ、ウガッツはゴーカイシルバーの振るった三ツ又の槍「ゴーカイスピア」によって倒される。

「大丈夫ですか？」

「待たせたな！後は俺たちに任せろ！」

そう言いながら、ゴーカイシルバーはベルトのバックルから人形のような物 レンジャーキーを取り出す。

「皆さん！ここは電磁戦隊で行きましょう！」

残りの五人もレンジャーキーを取り出し、キーモードに変形させる。

「……………豪快チェンジ！！」「……………」

【メエエエガレンジャー！】

【デエエエンジマアン！】

ゴーカイシルバーは「電磁戦隊メガレンジャー」の「メガシルバー」に変身するが、残りの五人は「電子戦隊デンジマン」に変身した。

「ノオオオオオ！それは『電子』戦隊ですよ！」

「似たようなもんだろ！」

デンジマンに変身した五人は腕に装着された鋼拳「デンジパンチ」を使って戦闘員集団を殴り飛ばす。

「・・・訳が分からん」

目の前でゴーカイジャーが別のスーパー戦隊に変身した事に、琥珀は驚きを隠せない。

「んじゃこっちも変わろうかい！」

琥珀はシャチ、クジャク、チーターをバツクルに装填してスキャンする。

【シャチ！クジャク！チーター！！！】
タトバコンボからシャジャーターへ。

「名付けて一人サンバルカン！・・・一個も合っていないけど」「おい！一個も合っていないじゃないか！」

「だから合っていないって前おいたでしょ！？」

「×カシルバーゴーカイシルバースに叱責された琥珀は左腕に装着された「タジヤスピナー」から火球を飛ばして戦闘員を薙ぎ倒す。

これによって、混成戦闘員集団は倒れた。

「ゴーカイジャーと琥珀は変身を解除し、向き合う。」

「やるじゃねえかお前」

「そりやどうも。で？あんた達は？」

「俺はキャプテン・マーベラス。ゴーカイがレオンの船長だ」

「ジョー・ギブケンだ。よろしく頼む」

「ルカ・ミルフィよ。あんた結構やるじゃん」

「僕はドン・ドッゴイヤー。出来たら『ハカセ』って呼んで欲しいな」

「アトム・ド・ファミーユと申します。先ほどはお疲れ様でした」

「俺の名は伊狩 鎧！誰よりもスーパー戦隊を愛する男だ！！」

「・・・はあ」

六人の自己紹介に、溜め息をつく琥珀。

「どうしました？」

「いや、この世界もついに異世界のお客様を迎えるようになったのか・・・と思つて。あ、申し遅れました、黒霧 琥珀って言います」

「で？俺らに何をしてくれるんだ？」

「は？」

マーベラスの言葉に首を傾げる琥珀。

「マーベラスさん、いきなり過ぎないですか？」

鎧がマーベラスに問いかける。

「そうですね。琥珀さんはあの占いを知らないのですから……」
アイムもマーベラスをたしなめる。

「……あの、カップケーキぐらいなら奢りますけど?」

「うめえ! 旨すぎるぜ! おい奏! もつと持ってこい!」

「ちよ、マーベラスさん! あたしの分取らないでよ!」

奏の両親が経営するカップケーキショップ「ラッキースプーン」。

響と奏も自己紹介をすませ現在に至るのだが……

「……それにしてもこの船長、食いすぎである」

奏もほとんど厨房に入りっぱなしで、両親にも『トコ』がいると思
つてどんどん焼いて!!』と頼んでいる。

「お~~~~い、琥珀~~~~」

琥珀たちの元に、戦友兼先輩である、「中央なかお音ビート」、「空野 勇騎」
、「千堂 琉歌」がやって来た。

「で? 会わせたい人って?」

琉歌が尋ねたその瞬間。

「マジか!?!」

「何だと!?!」

「嘘!?!」

「まあ……」

「何で!?!」

「皆何騒いで……る……」

琉歌とルカ。もうお気づきであろう。

「ルカ「さん」が……」

「琉歌が……」

「二人いる!？」

「……それにしてもこの二人、そっくりである」

「琥珀、今日はおとなしいね？」

「周りが濃いからな」

その頃、加音町某所。

「えっと、目は6。ファルセット、右から6列」

「了解」

世界を不幸のメロディで満たすため「マイナーランド」からやってきた「トリオ・ザ・マイナー」と、コアメダルとセルメダルによって体を構成している怪人「グリード」の一人、「禍原 華那子」は・

・・麻雀をしていた。

「・・・あんたら、何してんの？」

マイナーランドの歌姫「セイレーン」が問いかける。

「何って、麻雀？」

「そんな事する暇あったら音符探すなりプリキュア達を倒す為の作戦を練るなりしなさいよ！」

猫に怒鳴られる大人（？）四人。なかなかシユールな絵である。

「まあまあ、職務熱心過ぎて体壊すのは日本人の悪い癖よ？」

「私は猫よ！それにトリオ・ザ・マイナーも日本人じゃないし、あんたなんて人ですら無いでしょ」

「猫に言われるなんて・・・私も地に落ちたわね」

「だ〜か〜ら〜!!!」

その時。

「ちよ〜つとよろしいですか？」

四人と一匹の前に、漆黒のマントを纏い、生物から無生物まで、様々な物が混ざりあつたような怪人が立っていた。

「あんた、何者？」

セイレーンが問いかける。

「私、融魔導士^{わたくし}ヒューザーと申します。今日は皆様においしいお話を持って参りました」

「おいしい話って？」

華那子がの問いに、ヒューザーは口を歪め、笑う。

「・・・皆様の怨敵、『プリキュア』と『仮面ライダー』。そのどちらも葬る計画です」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2785u/>

プリキュア&仮面ライダーfeatゴ-カイジャー スーパーオールスターズ

2011年10月7日14時01分発行